

あさひが丘

No. 81

A S A H I G A O K A

地域社会に根差し 一人ひとりのこころの支えとなる 良質な医療を提供します

ごあいさつ

内科副院長
多羅澤 功
Isao Tarasawa



2024年1月より慈啓会病院の内科副院長に就任いたしました多羅澤と申します。

私は胃カメラ・大腸カメラといった消化管系の検査、嚥下造影検査や胃瘻造設など摂食嚥下障害に関連したこと、終末期がんの緩和ケアなどに携わってきました。

入院患者さまに対しては、主に「地域包括ケア病棟」という急性期医療を経過した患者さまや在宅で療養を行っている患者さまの受け入れ、在宅復帰支援を行っている病棟を担当しております。

新型コロナウイルス感染症の発生から4年あまりが経ち、ある程度の対処方法が確立され、去年5月からは感染法上の分類も季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げになりました。

毎日のようにテレビや新聞で発表されていた感染者数も目にしなくなって久しいですが、病院にはコロナに関連した相談が多く寄せられています。

「感染後から食事を食べられなくなった」、「感染前のように動けなくなった」といった後遺症によるものから、「入院は必要ないと言われたが、自宅での療養は難しい」「入居している施設でクラスターが発生し

ており、施設への退院ができない」など介護や療養に関することまで様々です。

副院長として地域医療連携により深く関わるようになってから、コロナ感染に限らず、このような「病気やケガの影響で、これまで通りの生活を送るのが難しくなった」といった内容の相談を数多く受け、様々な背景を持った患者様が様々な理由で病院に入院や支援を求めていることに気づかされました。

患者様の病状だけでなく、家族関係や生活環境なども含めて、どのような問題を抱えているのか、どうすれば患者様やその家族にとってより良い環境を整えることができるのかを一緒に考え、患者さま本人も家族も皆が安心して過ごせるような環境をつくれるよう支援していくことができればと考えております。

病院の理念・基本方針にあるように「患者さんに寄り添い、患者さんの立場で考える」「人に勧めたくなる病院」を目指して、少しでも地域医療に貢献できるよう精進していきたいと思っております。

この場を借りて、就任の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



外来診療担当医師

		月	火	水	木	金	土
内科	午前	亀井 (循環器病外来)	木村(裕)	木村(裕) (消化器病外来)	多羅澤 (胃瘻・嚥下障害外来)	川人 (糖尿病外来)	亀井 (第1週目)
		東出	河本	東出	辰口	伊林 (漢方外来)	多羅澤 (第2週目)
		伊林 (漢方外来)	宮坂 (漢方外来)	河本	垣内	井戸川	木村(裕) (第3週目)
	午後	辰口	川人 (アレルギー・リウマチ外来)	亀井	河本	亀井	辰口 (第4週目)
		伊林 (漢方外来)	伊林 (漢方外来)	河本 (第5週目)			

		月	火	水	木	金	土
精神科	午前	藤本	片村	藤本	木村(永) (物忘れ外来)	木村(永)	休診
	午後	藤本	片村	藤本	木村(永)	木村(永)	

診察受付時間

平日 午前 9:00~12:00
午後 13:30~17:00
土曜日 9:00~12:00

休診日

日曜・祝日・年末年始

診療科目

- 内科(消化器内科・老年内科・漢方内科)
- 精神科 ●放射線診断科 ●リハビリテーション科

※基本的には予約制ですが、予約なしでの診察も可能です。その際、お待ちいただく場合がありますのでご了承ください。
※伊林と宮坂の漢方外来のみ、完全予約制となっております。事前に内科外来までお問い合わせください。

※精神科外来初診の場合は予約が必要です。あらかじめ電話にて地域医療連携室までお問い合わせください。
※外来担当医師は変更になる場合がありますので、事前にお電話にてご確認ください。

肺炎球菌ワクチンについて

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気で、感染経路は主に飛沫感染で咳やくしゃみから感染します。また、からだの免疫からの攻撃に強く、退治するのが難しい細菌です。肺炎は、抗生物質などの薬の進歩と医療技術の向上により、治療できるようになりました。しかし、抗生物質が効かない耐性菌も増えており、肺炎球菌感染症は重症化しやすく、現代でも注意が必要な感染症です。高齢者の方にとって肺炎はいまだに怖い病気で、特に心臓や呼吸器に慢性疾患のある方、腎不全、肝機能障害、糖尿病などの疾患がある方は、肺炎などの感染症にかかりやすく病状も重くなる傾向があります。

肺炎球菌ワクチンは、肺炎球菌によって引き起こされる色々な病気(感染症)を予防するためのワクチンとなっていますので、ワクチン接種を検討してはいかがでしょうか。

令和6年度

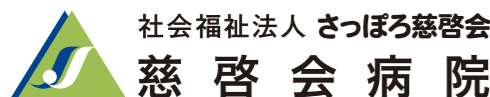
札幌市の高齢者肺炎球菌ワクチン定期予防接種は、以下の方が定期接種の対象となります。

- (1) 接種日現在で満65歳の方(65歳の誕生日から66歳の誕生日の前日まで)
- (2) 接種日現在で満60~64歳の方で、心臓、じん臓、呼吸器の機能、又はヒト免疫不全ウイルスにより障がい(身体障害者手帳1級相当)のある方

※公費・自費を問わず、過去に一度でも23価肺炎球菌ワクチン(ニューモバックス)を接種したことがある方は対象外となります。

※札幌市から令和6年度に65歳を迎える方へ、順次お知らせ文が送付されますので内容をご確認ください。

慈啓会病院での肺炎球菌ワクチンの接種をご希望される方は、予約制となっておりますので事前に受付窓口、お電話にてお気軽にご相談ください。



〒064-0941 札幌市中央区旭ヶ丘5丁目6-50
TEL.011-561-8292 FAX.011-551-3862
http://www.sapporojikeikai.or.jp/



無料シャトルバス運行中

就任のご挨拶

精神科部長 木村 永一



令和6年3月1日付けにて着任いたしました、精神科医師の木村永一です。当院の木村裕一院長とは、札幌医科大学在学中は同期生でした。臨床実習や組織実習、解剖実習等は、ほぼ同じ班に所属しておりました。今般、再び同じ班(病院)で診療に従事できることを、大いに心強く感じております。

小生は、昭和63年に札幌医科大学を卒業後、これまで、大学(薬理学講座)や数か所の精神科病院、大手生命保険会社(医務室産業医)、総合病院精神科、メンタルクリニック等で勤務してまいりました。専門は一般的な精神科領域と考えております。すなわち、何らかの特定領域に軸足を置いた診療ではなく、精神的疾患に幅広く対応してまいりました。しかしながら精神科領域では患者さんの高齢化が顕著であり、これまで勤務した精神科病院や総合病院精神科においても、年を追うごとに認知症性疾患(あるいは高齢者の精神障害)の担当症例数が増えました。統合失調症を始めとした精神疾患に対する薬物療法を、高齢者に対して無分別に適用することは危険です。かつ、内科的疾患等を背景とした身体機能低下等を認める高齢者への向精神薬処方には、格段の配慮をしておりました。今後の日本の人口構成を鑑みますと、高齢者に対し精神的な医療介入を要する場面が増えていくことは明らかであり、当院の役割はさらに大きくなると推察されます。このような状況下で、小生もこれまで以上に、慎重な精神科診療を心がけていく所存です。

さて、小生は還暦を過ぎ、日々、知力や体力の衰えを感じておりますが、気力だけは維持し、これまでの経験を活かして、当院の発展の為に尽力してまいります。

以上、よろしくお願いいたします。



地域医療連携室 室長 佐々木 あづさ

皆様、初めまして。本年4月1日から社会福祉法人 さっぽろ慈啓会 慈啓会病院の地域医療連携室 室長に着任いたしました佐々木あづさと申します。前任地では、がん治療、終末期、緩和ケア、緩和ケア認定看護師、がん専門相談員として長年間従事してきました。

私の経験でお役に立てることが御座いましたら対応させて頂きたいのでどうぞご相談下さい。

病院には、「地域医療連携室・医療相談室」があり、医療機関や介護施設、在宅機関との連携や、患者様・ご家族様・地域の皆様のご相談に対応しております。MSW、PSW、NS 5名体制で福祉を専門とする医療ソーシャルワーカーと医療を専門とする看護師が協働して、患者様・ご家族様の病気のこと、生活のこと等のご不安やご心配事に対応し、質の高いサービスを提供していきたいと考えております。

厚生労働省においては、令和7年を目途に、地域包括ケアシステムの構築を目指しています。重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、系統的に提供される仕組みの構築です。病院やクリニックなどの医療機関、訪問看護ステーション、介護施設や在宅サービス機関との連携は必須で、顔の見える連携を心がけ、「患者様・ご家族様中心の病院の枠を越えたシームレスなチーム医療」が展開できますよう横のつながりと末広がりなご縁を大切にしていきたいと思っております。

また、さっぽろ慈啓会は、来年には「100年の歴史」を刻もうとしております。一貫し高齢者福祉、高齢者医療に視点を定めて、歴史を重ねてきた力強い法人の姿は、私にとって深い関心を寄せることになりました。法人の理念は「共生(ともいき)」でございます。すべてのいのちに寄り添い、共に生き続けることです。その理念のもとに日々精進して行きたいと思っております、皆様どうぞよろしくお願い致します。

血液凝固検査の測定器が新しくなりました

検査部 伊東 結穂



「血液凝固」って？

通常、体の中で血液が固まることはありませんが、血管が何らかの原因で破れて出血したときには固まらないと困ります。体の仕組みにはこのようなときに血液を固まらせ、破れた穴をふさいで血液を止める(止血といいます)働きがあります。

血液を止める主役は蛋白でその生産工場は肝臓、材料にビタミンKを必要とします。凝固検査はこの蛋白を調べる検査で肝機能低下やビタミンK不足で異常値となります。また、血液を固まりにくくする薬を使用している方は薬の効果を知るために検査します。



当院検査室で測定している凝固検査

検査略語	名称	検査でわかること
PT	プロトロンビン時間	止血機能を見る検査で、出血傾向、経口抗凝固療法(ワーファリンなど)の指標になります。肝臓の機能が低下すると延長します。
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間	PTとともに測定し、止血機能の異常がどこにあるかを調べます。血栓予防のためのヘパリン治療のモニタリングにも利用します。
Fib	フィブリノゲン	止血作用に欠かせない働きをします。低下すると出血しやすくなり、高度に増加すると血栓傾向が発生します。肝硬変などの肝障害で低下します。また、感染症などの炎症疾患で増加します。
DD	Dダイマー	大動脈瘤、深部静脈血栓症などの血栓性疾患の早期発見に有用です。Dダイマーの増加は血管内に血栓が存在することを示します。

服薬カートを導入しました

薬剤部 仁平 早織



精神科病棟では、精神科のお薬に加えて内科のお薬を服用している患者様が多いため、おひとりのお薬の量が多くなる傾向にあります。さらに定期的に服用する「定期薬」と症状があるときだけ服用する「臨時薬」があることから、服用するお薬の種類や用法により1回ごとにお薬が多くなったり少なくなったりします。そのため、看護師は他の患者様との取り違えや服用時間の間違いなどを防止するため、細心の注意を払いながら何度も確認し、時間をかけてお薬をお渡ししているなど業務の負担となっておりました。

そこで、より安心安全にお薬をお渡しできるように服薬カートを導入しました。ひとつの引き出しを1名分として使用することで、見やすく、取り出しやすくなりました。また、これまで看護師が行っていたお薬のセットを薬剤師が行うことにより、看護師の業務負担軽減につながり、患者様へのかかわりを増やすことができました。これからもより良い医療・看護を目指して環境改善していきます。



服薬カート導入



「朝」「昼」「夕」「寝る前」のお薬を7日分セット可能